

革新への期待

更埴教育会長 北 沢 芳 洋

咲き誇る杏や桜の背に遙か白馬三山が輝いて見える。白馬鑓、杓子、白馬の三峰はそれぞれに特徴があり、その南側にある五竜や鹿島槍も個性を際立たせ、一体となって美しい景観を構成している。校内に子どもたちの声が響き、新たな年度が始まった。

三年前に始まった感染症の出口は依然として見えず、令和4年度が始まった現在も閉鎖や臨時休業の不安がなくなることはない。各校では、感染拡大防止に取り組みつつ、活動や指導方法を工夫し、児童や生徒の学びを止めない取り組みに苦心している。また、過去のようには本会員が集い、情報交換や研究を進める上での支障も多く、授業研究会も思うように実施できなかった中、私たち教師同士が互いの工夫や実践、考えや人となりから学び合うことが不可欠であると強く感じるようになった。

更埴教育会においても教育研究の充実と教職員としての専門性の向上を目指し、多くの制限の中で方法を工夫しつつ、新たな試みを取り入れながら創設以来の意義の継承が行われた。昨年度は、分断と隔絶、変更や縮小の中でも内容を精選し、対面とオンラインの組み合わせ等により会員が工夫を凝らしながら本会の事業を推進してきた。対面の良さは失われてしまったが、移動の負担軽減、安全性や参加が容易になる利点が明らかになってきた。本教育会の事業を支えていただいた全ての先生方の努力に心から敬意を表したい。

パンデミックが終焉を迎え、今までの教育活動や本教育会の活動が元に戻ることを期待したいのはもちろんであるが、この危機を今までの方法から脱却し、新たな発展の可能性を探る契機ととらえ、全員の英知を結集した新たな学びの創造や事業改革に生かせることを強く願う。私たち一人一人が今までの常識への問いを持ち、本教育会の目的と使命に迫る本質を見抜き、工夫を重ねていくことが大切であると強く感じている。教育会は、「会員の自発的活動を基調として、会員相互に信頼し協力して教職員として必要な専門性を高めること」、「地域における教育の振興をはかること」が目的である。

今こそ、本教育会設立精神を伝承しつつ、新たな事業の在り方を探る革新の時である。本教育会の目的を果たすためには、柔軟な発想による革新的な方法が不可欠であると感じている。前例踏襲に陥らず全会員の声を活かし、先輩教師から若手へ伝承する仕組みと若手と先輩が双方向で共に考え学び合う場であることも大切である。教育会は「自分への投資」であり、「磨き合う同志との絆の創造」なのである。

会館前の百周年記念碑には、佐久間象山による「憑高臨遠」の文字が刻まれている。「高きに憑(よ)り遠きに臨む」は更埴教育会の精神を表したものである。高い志と見識から未来の教育と私たちの研修のあるべき姿を臨み、革新への歩みを進めたい。

